

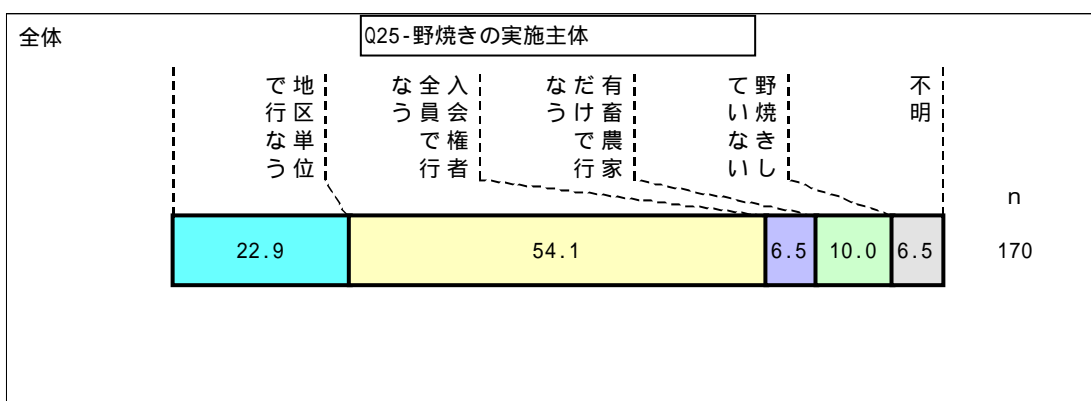
7. 輪地切り省力化技術についての意向

(1) 野焼き・輪地切りの実施主体と作業上の問題点

1) 野焼きの実施主体

5割以上の牧野組合が、入会権者全員で野焼きを実施

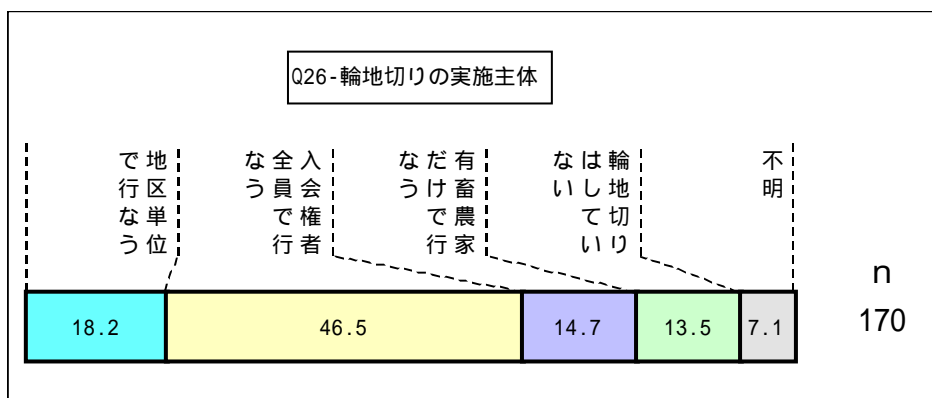
野焼きの実施主体についてみると、「入会権者全員で行う」という牧野組合が54.1%と最も多く、次いで「地区単位で行う」(22.9%)、「有畜農家だけで行う」(6.5%)となっている。なお「野焼きはしていない」牧野組合は10.0%である。



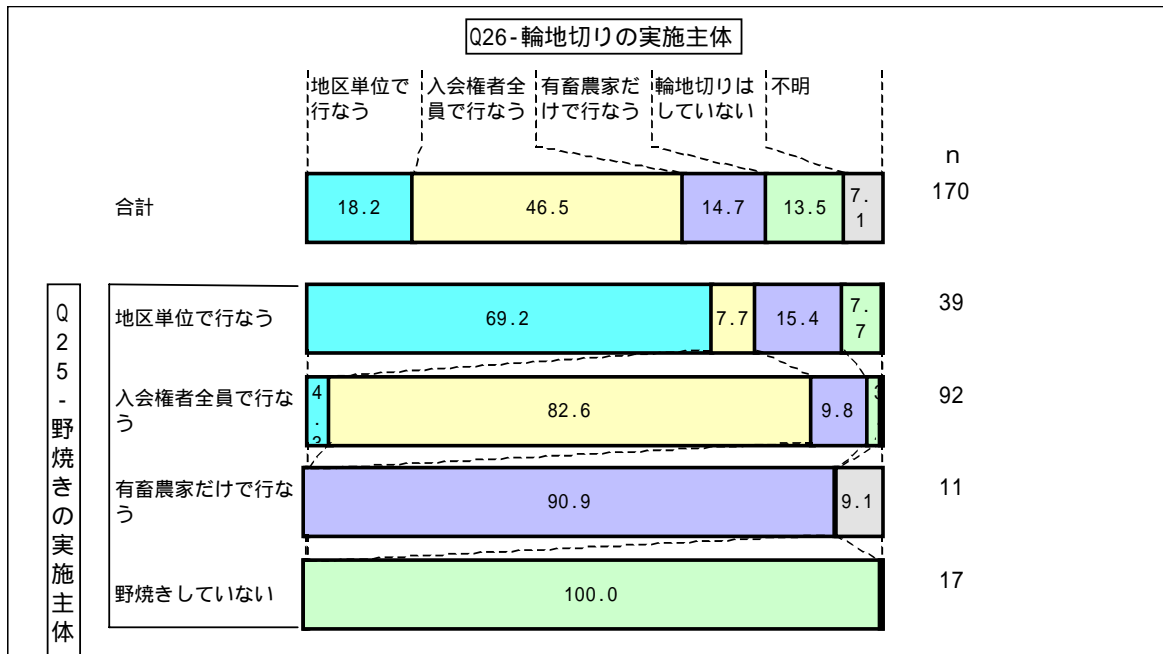
2) 輪地切りの実施主体

4.5割の牧野組合が、入会権者全員で輪地切りを実施。野焼きと比べると「有畜農家だけで行う」牧野組合がやや多い

輪地切りの実施主体についてみると、野焼きと同様「入会権者全員で行う」という牧野組合が最も多く(46.5%)、次いで「地区単位で行う」(18.2%)、「有畜農家だけで行う」(14.7%)となっている。野焼きと比べると、輪地切りについては「有畜農家だけで行う」牧野組合がやや多い結果となった。



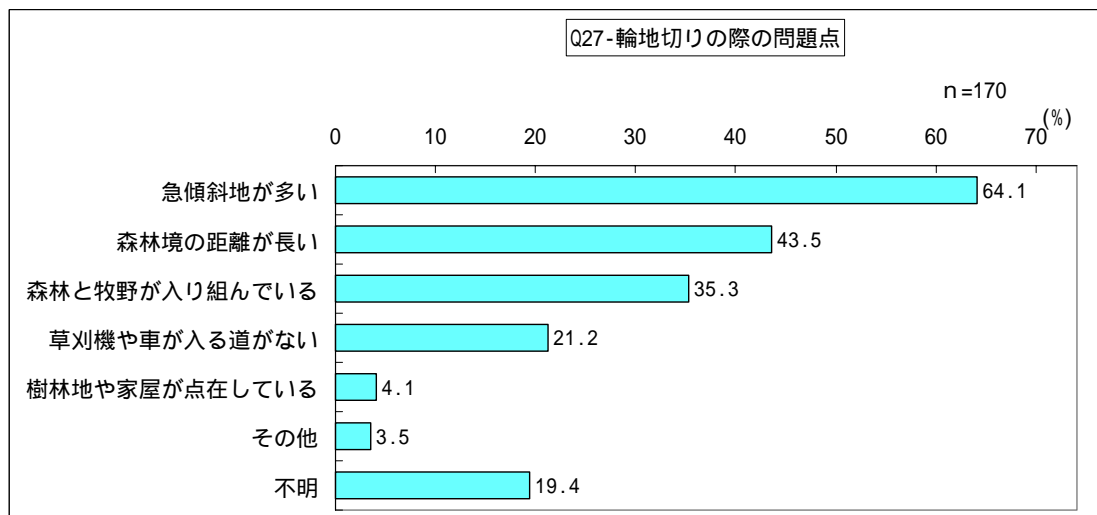
野焼きの実施主体別に輪地切りの実施主体をみると、野焼き・輪地切りとも同一の主体で行っている牧野組合がほとんどだが、「野焼きは地区単位で行うが輪地切りは有畜農家だけで行う牧野組合」（野焼きを地区単位で行う 39 組合を母数とする 15.4%：6 組合）や、「野焼きは入会権者全員で行うが輪地切りは有畜農家だけで行う牧野組合」（野焼きを入会権者全員で行う 92 組合を母数とする 9.8%：9 組合）というケースもある。



3) 輪地切りの作業上の問題点

急傾斜地が多いことや、森林境との距離の長さ、森林境と牧野が入り組んでいることなどが問題

輪地切りが必要な箇所ですべて問題になることについてみると、「急傾斜地が多い」ことが 64.1% で最も多くを挙げられた。次いで「森林境の距離が長い」(43.5%)、「森林と牧野が入り組んでいる」(35.3%)、「草刈機や車が入る道がない」(21.2%)となっている。なお、「樹林地や、家屋が点在している」を挙げた牧野組合は 4.1% (7 組合) と少ない。

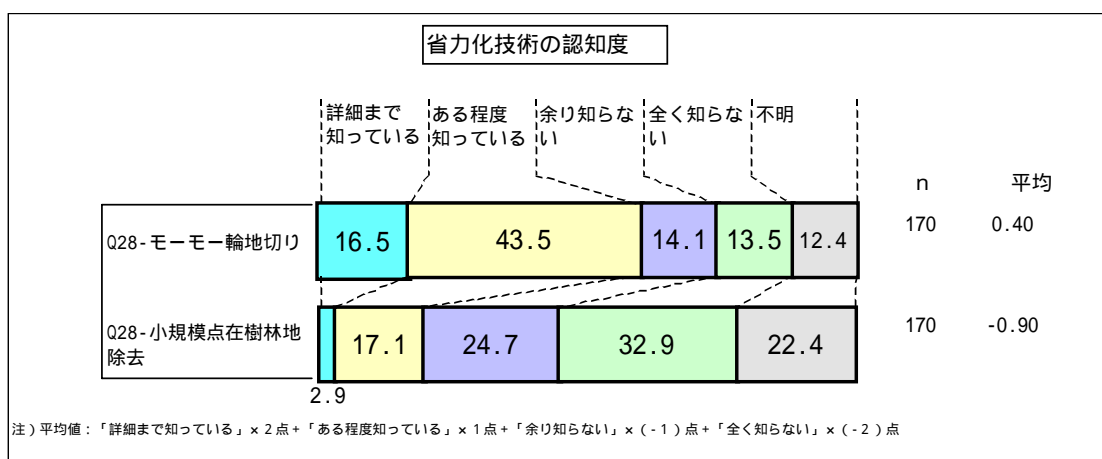


(2) 輪地切り省力化技術の認知・関心度と牧野での活用可能性

1) モーモー輪地切り・小規模点在樹林地除去の認知度

「モーモー輪地切り」の認知度は比較的高いが「小規模点在樹林地除去」はあまり知られていない

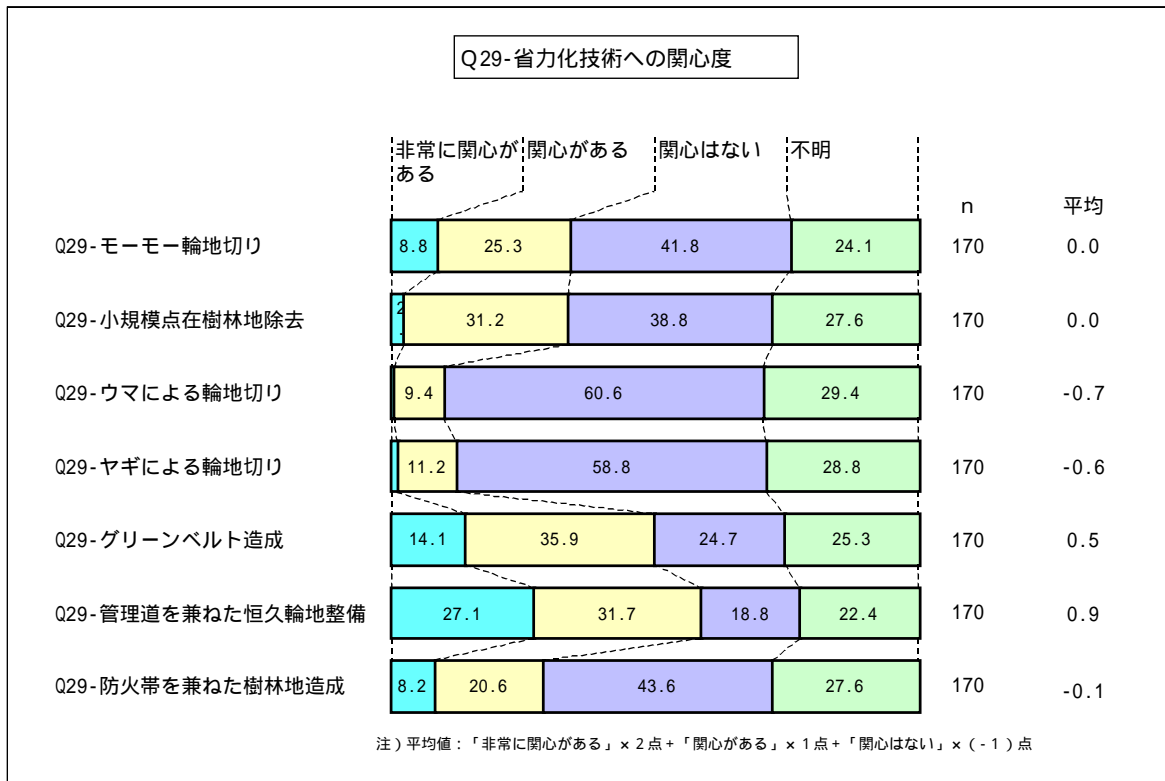
平成 13～15 年度にかけて草原景観維持事業（グリーンワーカー事業）としてモデル牧野を設け、普及を図った輪地切り省力化技術である「モーモー輪地切り」と「小規模点在樹林地除去」の認知度についてみると、モーモー輪地切りについては、「詳細まで知っている」「ある程度知っている」牧野組合を合わせると6割に達する。一方、小規模点在樹林地除去については、「余り知らない」「全く知らない」牧野組合を合わせると6割近くになり、モーモー輪地切りと比較して認知度は低い。これは、モデル牧野として取り組んだ牧野組合の数が、モーモー輪地切りに比べ少なかったことも影響していると思われる。



2) 輪地切り省力化技術への関心度

「管理道を兼ねた恒久輪地整備」「グリーンベルト造成」への関心度が高い

7種類の輪地切り省力化技術への関心度についてみると、最も高い関心を持たれているのは「管理道を兼ねた恒久輪地整備」で、「非常に関心がある」(27.1%)、「関心がある」(31.7%)を合わせると計58.8%の牧野組合が関心を示している。次いで、「グリーンベルトの造成」への関心度が高く、「非常に関心がある」「関心がある」計で50.0%となっている。「モーモー輪地切り」「牧野内の小規模点在樹林地除去」「防火帯を兼ねた樹林地造成」は3割前後の牧野組合が「関心がある」こととなっている。なお、「ウマを活用した輪地切り」と「ヤギを活用した輪地切り」にはあまり関心が持たれていない。

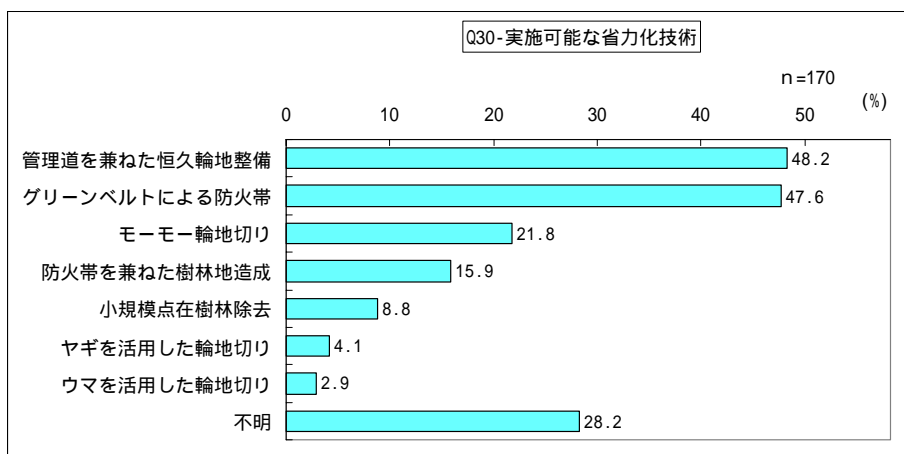


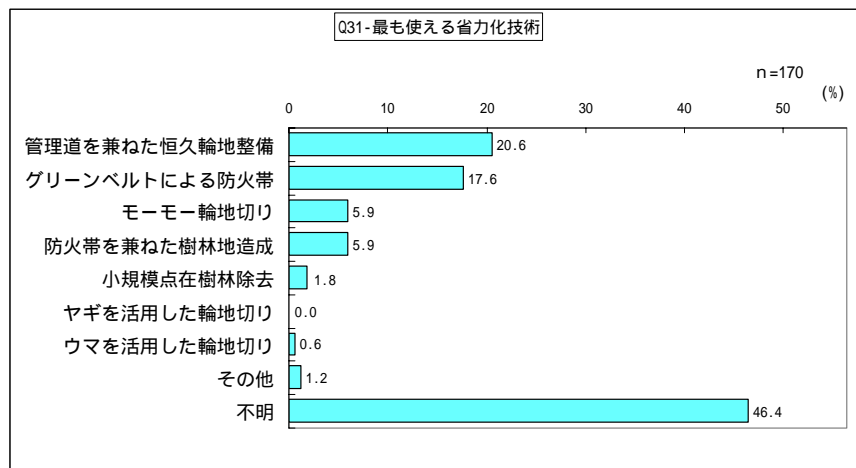
3) 実施の可能性が高い省力化技術

「管理道を兼ねた恒久輪地整備」「グリーンベルトによる防火帯」を実施可能と考える牧野組合が多い

前設問で関心度をみた7種類の輪地切り省力化技術について、今度は実際に使える可能性の高い技術は何かという質問(複数回答)を行った結果、やはり関心度の高かった「管理道を兼ねた恒久輪地整備」(48.2%)と「グリーンベルトによる防火帯」(47.6%)が、多くの牧野組合で挙げられた。次いで「モーター輪地切り」(21.8%)、「防火帯を兼ねた樹林地造成」(15.9%)、「小規模点在樹林地除去」(8.8%)となっている。なお、「小規模点在樹林地除去」を挙げる牧野組合が少ないのは、輪地切りの問題点として「樹林地や、家屋が点在している」を挙げた組合が少ないことも影響しているものと思われる。

また、最も使えそうな技術についての回答を求めた結果、やはり「管理道を兼ねた恒久輪地整備」(20.6%)と「グリーンベルトによる防火帯」(17.6%)が多く挙げられた。





4) 省力化技術を導入するための条件

省力化技術を導入するためには「資金の提供」を望む牧野組合が多い

輪地切り省力化を実際に導入するための条件としてどのようなことが必要になるかについては、「資金の提供」が55.9%と最も多くを挙げられている。次いで「資材等の提供」(28.2%)、「労力の提供」(20.6%)、「技術指導」(14.1%)となっている。

